

2020年8月13日

各 位

会 社 名 株式会社カイオム・バイオサイエンス
代表者名 代表取締役社長 小林 茂
(コード：4583 東証マザーズ)
問合せ先 取締役 経営企画室長 美女平 在彦
(TEL. 03-6383-3746)

投資に関する説明会開催状況について

当社は、以下のとおり、投資に関する説明会を開催しましたので、お知らせいたします。

■ 開催状況

開催日時 2020年8月12日 16:00～16:40

開催方法 オンライン配信による開催

説明会資料 株式会社カイオム・バイオサイエンス 2020年12月期第2四半期決算説明

【添付資料】

説明会において使用した資料

以 上



証券コード：4583

2020年12月期第2四半期 決算説明会

2020年8月12日



株式会社カイオム・バイオサイエンス



- 1. 2020年12月期第 2 四半期業績**
- 2. 2020年12月期第 2 四半期事業進捗**



2020年12月期第2四半期業績

損益計算書



	2019年12月期 2Q	2020年12月期 2Q	増減	増減の主な理由等
売上高	140	173	32	
(創薬事業)	1	1	0	
(創薬支援事業)	139	171	32	・ 国内製薬企業の取引増加により、前年同期比23%増加
売上原価・販管費	890	909	18	
(研究開発費)	636	608	△27	・ CBA-1205製剤費用が前期より減少
(その他)	254	300	46	・ 取引増加に伴う材料費の増加 ・ 研究所拡張・機器増設による増加
営業損失 (△)	△749	△735	△13	
経常損失 (△)	△758	△735	△22	
当期純損失 (△)	△757	△736	△21	

※ 百万円未満は切り捨ててして表示しています。

貸借対照表



	2019年12月期末	2020年12月期 2 Q末
流動資産	2,561	2,804
（現預金）	2,105	2,472
（その他）	456	332
固定資産	247	249
資産合計	2,808	3,054
流動負債	145	427
固定負債	41	41
負債合計	186	468
純資産合計	2,621	2,585
負債・純資産合計	2,808	3,054

※ 百万円未満は切り捨てして表示しています。

キャッシュフロー計算書



	2019年12月期2Q	2020年12月期2Q
営業活動によるキャッシュ・フロー	△677	△528
投資活動によるキャッシュ・フロー	—	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,248	894
現金および現金同等物の増減額	570	366
現金および現金同等物の期首残高	2,328	2,105
現金および現金同等物の期末残高	2,899	2,472

※ 百万円未満は切り捨てして表示しています。

【営業活動によるキャッシュフローの主な内訳】

- ・ CBA-1205の非臨床試験・製剤開発委託費・CRO委託費の支払い

【財務活動によるキャッシュフローの主な内訳】

- ・ 行使価額修正条項付き第17回新株予約権の行使による株式発行に伴う収入



新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言の発令に伴い、当社および顧客企業においても一部業務の変更、遅延、延期等があったものの、第2四半期までの業績に与える影響は限定的なものでした。

今後の感染状況やその他の状況の経過によって、当社、研究機関および取引先の事業の停止や施設の閉鎖等が発生した場合、または、当社が事業を行う国や地域における許認可機関による手続の遅滞等が発生した場合には、当社の業績等に影響が生じる可能性があります。

当社では、今後も在宅勤務や時差出勤等の感染予防の対策を講じつつ、抗体創薬、創薬支援の事業への取り組みを継続してまいります。



2020年12月期第2四半期事業進捗



創薬事業

アンメットニーズの高い疾患領域における抗体創薬の自社開発または共同開発を行い、その成果物である抗体に関する特許権等の知財権を製薬企業等へ実施許諾し、契約一時金、マイルストーン、およびロイヤルティ等の収入を獲得していく事業。

創薬支援事業

製薬企業、診断薬企業および大学等の研究機関で実施される創薬研究を支援することで、サービス料等の収入を獲得する事業。当社の保有する抗体創薬技術プラットフォームを活用した抗体作製・抗体エンジニアリングおよびタンパク質調製が主なサービス内容。

創薬事業 (パイプライン)



導出品

開発コード	標的分子	疾患領域	創薬研究	前臨床試験	臨床試験	導出先
ADCT-701 (LIV-1205 ADC)	DLK-1	がん				2017.9~ ADC THERAPEUTICS

自社パイプライン

開発コード	標的分子	疾患領域	創薬研究	前臨床試験	臨床試験	ステータス
CBA-1205 (ADCC enhanced)	DLK-1	がん				Phase 1
CBA-1535 (Tribody™)	5T4×CD3 ×5T4	がん				GMP製造
LIV-2008 /2008b	TROP-2	がん				導出活動中
BMAA	SEMA3A	糖尿病黄斑 浮腫、他				2018.3 オプション付き 評価契約締結
創薬研究 プロジェクト (6件)	非開示	がん 感染症 中枢神経				—

2020年7月末時点

創薬事業 (パイプライン)



CBA-1205 ヒト化抗DLK-1 モノクローナル抗体	<ul style="list-style-type: none">✓ 第一相試験開始7月、国立がん研究センターと治験契約締結、第一例目投与開始固形がん・肝細胞がん患者を対象に、安全性・忍容性・体内動態および有効性評価を実施する
CBA-1535 ヒト化抗5T4・抗CD3 二重特異性抗体	<ul style="list-style-type: none">✓ 臨床試験に向け準備中治験薬製造委託CMOにおいて治験薬製造の準備が進捗2021年後半以降に英国での臨床試験許認可 (CTA) 申請を見込む4月、日本における特許成立
LIV-2008 ヒト化抗TROP-2 モノクローナル抗体	<ul style="list-style-type: none">✓ ライセンス活動に集中複数の海外製薬企業が異なる用途で導入評価試験等を実施中
BMAA ヒト化抗セマフォリン3A モノクローナル抗体	<ul style="list-style-type: none">✓ SemaThera社による評価継続中2018年3月締結の共同開発ライセンスおよび独占的オプション契約に基づく評価が継続
その他創薬PJ (6件)	<ul style="list-style-type: none">がん領域PJ：外部企業と連携してADC領域での評価を実施中知財化に向けた研究開発の推進新規PJ発足に向けた活動推進 (新規共同研究、Tribody技術)
ADCT-701 (導出品)	<ul style="list-style-type: none">ADCT社によりIND申請に向けた準備が進行中現在の見通しでは、2020年以降の治験申請を見込む



がん治療用抗体CBA-1205第一相臨床試験 DLK-1を標的とした世界初のヒトへの投与開始

- 2020年7月、国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院および東病院の2施設と治験実施に関する契約を締結後、速やかに第一例目の患者さんへの投与を開始。当初は標準的治療法がない、あるいは標準的治療法に不応又は不耐の固形がん患者さんを対象。
- 本試験の前半ではCBA-1205の安全性・忍容性・体内動態を確認、後半パートでは肝細胞がん患者さんを対象に有効性の評価も行う。
- 日本医薬情報センター（JAPIC）の臨床試験登録サイトへ第一相試験登録
-2020年7月から患者登録開始

JapicCTI-No.	組織名 / sponsor name	試験の名称 / study title
JapicCTI-205384	株式会社 カイオム・バイオサイエンス	CBA-1205第I相臨床試験
	Chiome Bioscience Inc.	Phase I study of CBA-1205



抗体作製基盤技術に関する研究成果

ヒトADLib®システムの「日本特許査定」および「論文掲載」

➤ 『ヒト抗体を産生する細胞』の日本特許成立

2020年6月、当社独自の抗体作製技術「ヒトADLib®システム」を構成する重要な要素である『ヒト抗体を産生する細胞』に関する特許が日本で査定。成立。

➤ ヒトADLib®システムに関する論文の掲載

東京大学と共同で、科学的検証と実用性評価に関する研究成果を国際的な論文誌に掲載。

タイトル：

Streamlined human antibody generation and optimization by exploiting designed immunoglobulin loci in a B cell line

研究概要：

ヒトADLib®システムは、多様な抗体を産生するトリB細胞の特徴を生かして開発した、ヒト抗体を効率よく産生する技術であり、同じメカニズムによって抗原への結合力（親和性）をさらに増強した抗体改良にも応用できる。本研究では、実際に治療薬の標的になっている、VEGF（がん等）やTNFα（リウマチ等の自己免疫疾患）に対する抗体作製を、開発されたヒトADLib®システムで実施することで、これら標的分子に特異的に結合し、その機能を阻害する抗体が取得できることを示した。加えて、抗体を作り出す細胞を培養するという簡易なステップにて、標的分子への親和性や機能阻害活性を大幅に改善した、改良抗体取得が可能であることも報告している。

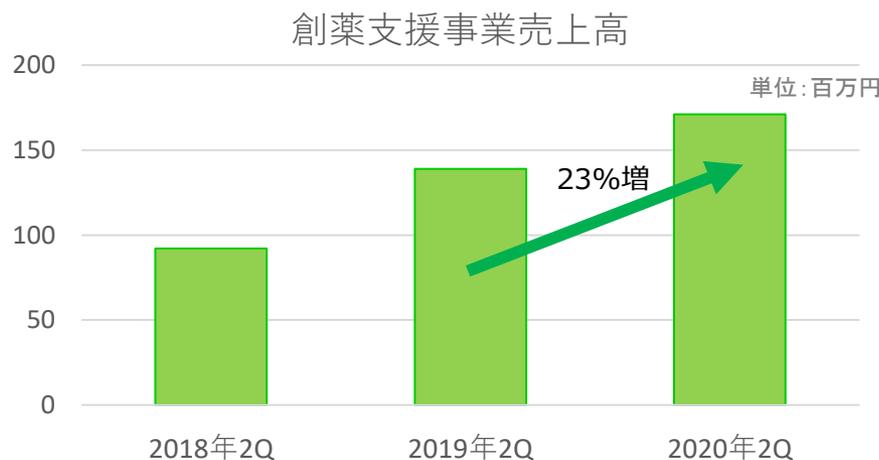
論文掲載先：

Cellular & Molecular Immunology（オンライン版）

<https://www.nature.com/articles/s41423-020-0440-9>

受託研究取引の拡大

- 国内製薬企業等との取引の拡大により売上高は前期比で23%増加。
 - 第2四半期は新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言の発出により当社と取引先で一時的に稼働が低減したが業績影響は限定的。



- 新型コロナウイルスに対する抗体作製受託案件を継続して対応中、第2四半期完了案件に対する売上高を計上。
- 今後も継続的な取引が見込まれ、また取引規模が拡大基調にあるため、業務キャパシティ向上のための研究所改修及び機器増設工事を実施。



- SMBC日興証券株式会社を割当先とした行使価額修正条項付き第17回新株予約権を発行を決議（2020年5月27日取締役会）

＜本資金調達の目的＞

当社企業価値向上にむけた

継続的な新規創薬による創薬パイプラインの強化

当社のコアコンピタンスである技術プラットフォームの強化

具体的な資金使途	金額(百万円)	支出予定時期
①新規ADC抗体の開発のための薬効薬理試験費用、がん・感染症領域等の創薬プロジェクトに関する研究費	1,764	2020年7月～2022年12月
②多重特異性抗体作製技術（Tribody™）を用いた新規パイプラインの創製	250	2020年7月～2022年6月
③新規抗体作製技術及び創薬パイプラインの獲得	400	2021年1月～2022年12月

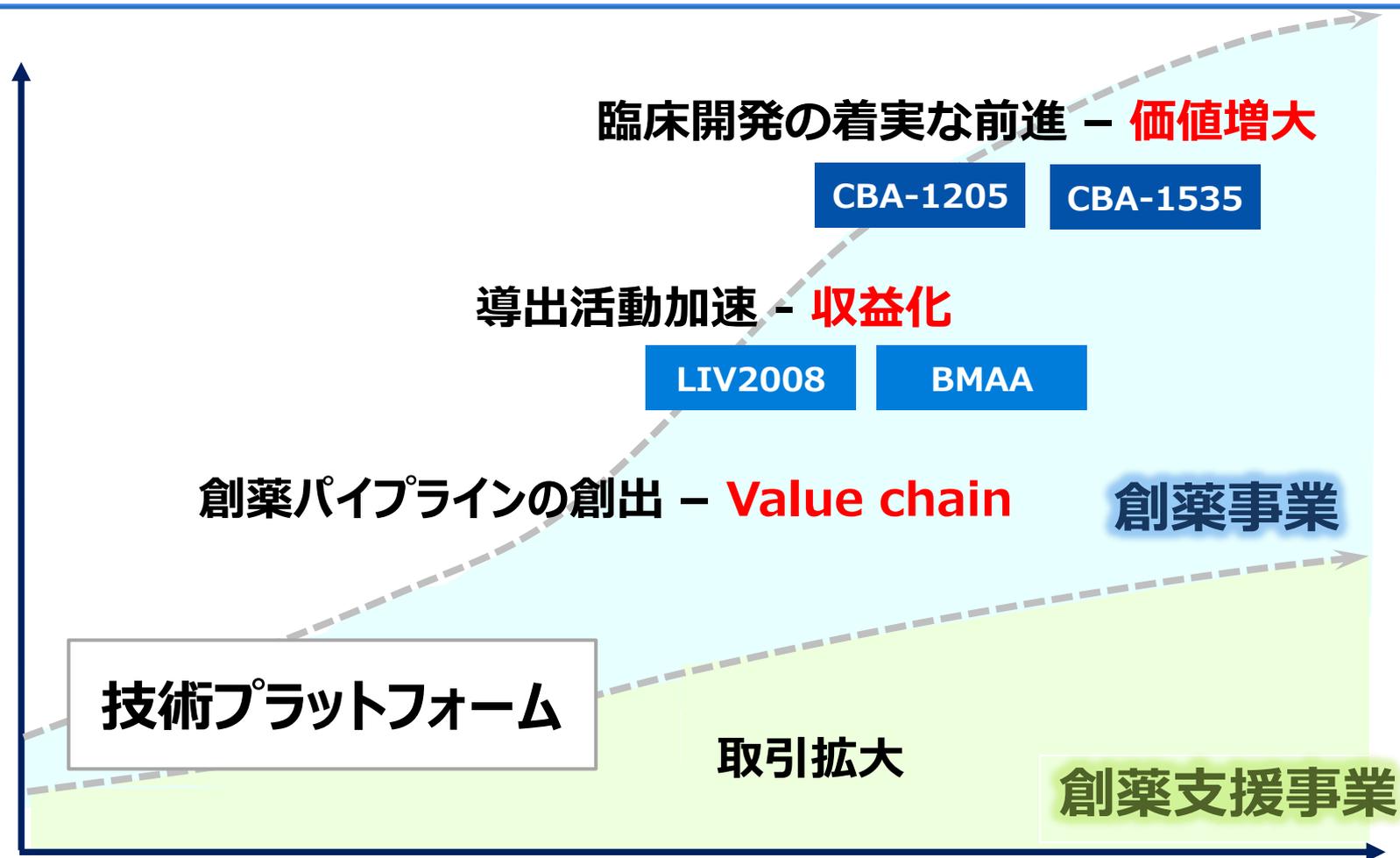
- 2020年7月末時点の調達状況

行使株式数 3,352,200株/7,000,000株（行使率 47.9%）

累計調達額 1,060百万円



抗体医薬の基礎研究から臨床開発まで推進できる体制を構築
パイプラインの価値向上と導出活動加速によって持続的な利益の創出へ





医療のアンメットニーズに創薬の光を

To accelerate drug discovery and development of mAb
for therapeutics to overcome current medical unmet-needs





- 本資料は、株式会社カイオム・バイオサイエンス（以下、当社という）を御理解頂くために作成されたものであり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。
- 本資料に掲載されている将来の見通し、その他今後の予測・戦略などに関する情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲で判断したものであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は様々な要因の変化等により、本資料記載の見通しとは異なる結果を生じる可能性があります。
- 将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確かさを内在しております。
- 今後、新たな情報や将来の出来事等が発生した場合でも、当社は本発表に含まれる「見通し情報」の更新、修正を行う義務を負うものではありません。